

## 5 上越市の地域特性と潜在力

上越市の歴史を振り返ると、地域の発展を支えてきた要素の優位性が時代の変遷と共に変化し、いわば栄枯盛衰の繰り返しの中で新しい時代が切り拓かれてきたと言えます。

そのような中、近年見られる人々や社会の中での新しい価値観の広がり、まさに時代の転換期を予感させ、上越市が新たな発展の法則を見いだすための絶好の機会であると言えます。例えば、近年アジア地域がめざましい発展を続ける中で、それらの諸国と最も近い位置にある日本海側の地域は、太平洋側の地域に匹敵する高い発展の可能性を秘めています。

新しい上越市は、市町村合併によってこれまで以上に多様な地域資源<sup>17</sup>を有することとなりました。これからは、豊かな自然環境や地勢のみに依存し、ただ時代の流れに身を委ねるのではなく、これらの地域資源を新たな発展の原資としながら、地域の英知を結集し、上越市の優位性や潜在力をいかに発揮することによって、多少の変化に揺るがない強固な地域の基盤をつくっていく必要があります。

以上の視点から、これからのまちづくりにおいて特に上越市の特性となり、潜在力と位置付けることのできるものを次のようにとらえます。

### (1) 「自然(天)」の恵みがもたらした農村と都市の個性

#### ◆ 豊かな自然環境と市の発展

- 上越市の歴史は、地勢や気候など地域が元来備えていた自然条件を最大限に利用し、バランスよく活用してきたことにより刻まれてきました。
- 例えば、国内有数の稲作地帯を生み出す基礎となったのは、雪がもたらす豊富な水資源であり、米や酒に代表される豊かな食や、スキー・温泉・海水浴・パラグライダーなどのレジャーは、すべて自然の恵みに由来するものです。
- 産業面においても、自然資源は大きく影響しました。水力発電の開発により豊富な電力が確保できたことに加え、石油や天然ガスなどのエネルギー資源が湧出し、さらに長距離線の鉄道がいち早く整備されたこともあいまって、今日の経済の根幹となる工場立地が促進された側面もあります。

#### ◆ 自然が育んだ農村文化

- 地域の歴史の基礎であり、特色でもある、豊かな自然環境や雪国という地域特性をいかし、長い年月をかけて、上越市はこれらに由来する生活文化を育んできました。例えば、中山間地に多く見られ、豪雪から生活を守る工夫が凝らされたかやぶき家屋や、冬季間の日常の往来を確保し、隣近所の地域コミュニティをつなぐ高田の雁木のほか、明治期に北陸地方では最も多く上越市に存在していた食物の貯蔵庫・雪室などは、雪国の暮らしの知恵の結晶であり、雪国文化・雪国精神を象徴するものと言えます。

- こうした歴史をいかし、近年では、安塚区における学校施設への雪冷房施設の導入など、新しい技術を用いて自然の恵みを有効活用しようとする動きも起こっています。
- また、近年では、本物の農村風景が残るまちとして、中山間地域の伝統行事や農業技術、農村風景などの無形の文化も注目を集めています。これらは自然と共生してきた“地域の記憶”を今日に伝えるものであるとともに、人から人へと受け継がれる中で文化として認識されており、上越市が誇るべき地域資源<sup>17</sup>の一つです。

#### ◆ 自然の恵みがもたらした都市の発展

- 上越市は、港町、城下町、宿場町、港湾都市、商業都市、工業都市など、様々な側面を有しながら発展を遂げ、長い時間をかけて都市としての一定の機能を備えてきました。
- 都市が成立するためには、住民の生活を維持するための食料の供給や、水、電力、他の都市とのつながりを確保するための交通や通信などのライフライン<sup>1</sup>が必要となります。また、大きな都市になるにつれ、人口規模などに応じた、上下水道、道路、鉄道駅、港湾、空港などの都市基盤の整備も不可欠です。つまり、現在、一定の人口規模を有する都市に共通するように、港湾に適した地形や居住環境・自然環境などの条件に恵まれていることが、都市の発達条件と言えます。
- 上越市は、雪がもたらす水資源や、石油・天然ガスなどのエネルギー資源が蓄えられた土地であったこと、主要地点を結ぶ交通路の途中に位置していたことなど、その発展の上で極めて自立的・安定的な条件を備えていたこととなります。
- 地域が元来備えていた潜在的な発展の条件に加え、その発展性を高める施設整備のために財源を投じることで、上越市は今日の都市的機能を集積させてきました。こうした発展の足跡は、遺跡・城跡、雁木、鉄道、工場など様々な遺産や資産として残されており、今日ではそれが文化的価値を持つものもあります。
- 今日、人々や社会を取り巻く価値観が大きく変化しています。こうした変化をとらえると、長い年月をかけて蓄積してきた市の資産をいかにしながら、都市的機能の集積を実現させてきた地域の力を踏まえ、新たな地域の魅力を創造できる可能性も開かれています。

#### ◆ 多様性と一体性を有する「環境都市」

- 上越市の各地区は「海・山・大地」という固有の自然環境を有し、独自の歴史や産業を育みながら、今日の発展を遂げてきました。
- 一方、合併して新しい上越市が誕生する以前から、合併前の上越市と旧13町村は一体的な日常生活圏を形成していました。古来より、農村は生産地であり、水源として平野を豊かに潤すと同時に、そこで作られた作物や物資が市街地で取引され、消費地である市街地を支えてきました。また、現代においても、住民や企業の活動は市町村の境界を越えて行われてきました。

- これは、広域な平野であっても、関川水系という大水脈によって各地区の生活・生産基盤が結ばれると同時に、山脈などにより交流が分断されることがなく、互いの顔が見える関係にあったという地理的条件が影響しています。
- 今後、社会や経済のボーダレス<sup>23</sup>化・グローバル化が一層進むと、まちの個性や“かお”となるその土地らしさがより強く問われることとなります。
- 上越市全体の暮らしが豊かになるためには、個々の地区——中心市街地や中山間地が元気でなくてはなりません。その地に暮らす人々によって伝承されてきた雪国・農村文化、そして地域がそれぞれ守り育ててきた個性は、市全体として中山間地と中心市街地の双方で人口減少（過疎化）と高齢化が進む中で、新たな方法により守り伝える工夫が必要です。
- 一方で、上越市の有する個性が結ばれ、海側の連なり、山側の連なり、大地の連なりとして広がりを持つことによって、市の個性がさらに明確になることは、上越市の魅力を発信する上で極めて強固な強みと言えます。
- 広大な市域に都市と農山漁村の機能を併せ持ち、日本の縮図とも言える環境を有する上越市は、時に地方都市のモデルとも呼ばれます。
- 環境の世紀と言われる21世紀に入り、身近な地域レベルで環境問題への具体的な取組が全国的に進められていますが、豊かな自然の恩恵を受けて都市と農山漁村が共に歩んできた上越市は、環境、経済、社会のバランスがとれた持続可能な社会の実現を目指し、生活の質の豊かさを求めて自然や環境の価値を見直すまちづくりにおいても有利な条件を備えていると言えます。

## (2) 交通の十字軸上に位置する「地」の利

### ◆ 上越市の地理的優位性 ～古くからの交通の結節点～

- 上越市は、南北に長い圏域を有し、北陸・関東甲信越・東北などとそれぞれ密接な関係にある新潟県において、新潟市と富山市のほぼ中間に位置し、古くから長野県と経済的・人的に強く結びついてきました。
- 上越市は、どの時代にあっても主要な交通路が交差する地点でした。海路から陸路へ、徒歩から鉄道・車へ、そして高速交通へと主要な交通手段が変化する中であってもその地位は揺るがず、今日の鉄道や高速道路が整備されてきました。
- この結果、上越市は北信越地方における交通の結節点として、また、複数の高速交通体系を有していることにより、三大都市圏と日本海側を結ぶ結節点として、位置的・時間距離的な比較優位性を有してきました。
- 一方で、長野市と約80km（高速道路で約1時間）、長岡市と約70km（同約50分）、新潟市と約120km（同約1時間半）、富山市と約120km（同約1時間半）など、周辺の大都市とは一定の距離があり、これに加えて冬季間の雪の影響もあったことにより、これらの市を中心とする圏域とは、これまで交流関係を保ちながらも、競合関係になることはありませんでした。
- このように、交通の結節点に位置しながら大都市と一定の時間的距離が保たれていたことにより、交流を通じながら地域の独自性が保たれ一つのまとまりを成していたことも、今日的发展をもたらした重要な要素となりました。
- このことは、地域の一体感を共有しつつ、地域の共通目標の達成に向けて今後地域が一丸となって取り組む上でも、重要な強みであると言えます。

上越市と周辺都市の位置関係



◆ 周辺都市との差別化（役割分担）と地域連携

- 平成26（2014）年度末に予定されている北陸新幹線の開業（金沢延伸）によって、上越市には空港（航空）以外の交通網がすべて整うことになります。これは、上越市の潜在力を最大限に発揮する好機と期待されます。
- ただし、このことは上越市に大きなチャンスをもたらすと同時に、市の発展を支えてきた「地の利」を脅かす恐れがあることにも注意を払わねばなりません。つまり、時間的距離が短縮されることによって大都市との経済圏が一体となり、長野圏や富山・金沢圏、ひいては首都圏の圏域の一部となりかねないということです。
- さらに、今後、県庁所在地として既に資本が集中的に投下され、都市機能<sup>18</sup>の充実が図られている長野市や富山市、金沢市などの新幹線沿線都市、さらには首都圏を中心とする圏域との競争・競合関係が顕在化することも予想されます。
- 他の大都市圏に埋没しないためには、上越市の個性・特性を明確に打ち出すとともに、これらの都市との地域連携を進めるなど、「新たな地の利」を自らの手で築くことが求められています。

◆ 「アジアの時代」の風向きをとらえる

- 経済のグローバル化や、観光・教育（留学、研修など）といった国民の活動のボーダレス<sup>23</sup>化が進む中であって、今後は対岸との人的・物的交流がさらに活発化する大交流時代の幕が開かれようとしています。
- 平成18（2006）年の日本の輸出入総額に占めるアメリカの比重は17.5%にまで落ち込む一方、アジア地域は45.7%となっています。また、平成7（1995）年～平成16（2004）年までの外航コンテナ取扱量の年平均伸び率は、日本全体で4.6%であるのに対し、日本海沿岸11港全体では13.4%と、全国平均を上回っています。
- このように、近年、日本海側の各港の貿易量は、対アジア地域との間でめざましい伸びを示しています。これまで太平洋側に集中してきた物流が、今後、対アジア地域に関しては日本海側に分散する動きを予見する声もあります。
- 一方、これまで太平洋側への投資が先行してきたことから、日本海側の港湾設備は劣勢に置かれています。今後、アジアとの相互連携の中で日本が発展しようとするれば、環日本海経済圏の発展を見据えた日本海側の港湾の増強が不可欠です。このためには、太平洋側と日本海側とを連携させ、その相乗効果の中で港湾の位置付けを向上させながら、経済の推進力や地域の活力を生み出していく必要があります。
- 上越市は、日本海を間に挟みながら、今後の発展が期待される琿春市（中国・吉林省）や世界的鉄鋼メーカー・ポスコが立地する浦項市（韓国・慶尚北道）と姉妹都市の関係にあり、これまで職員の相互派遣などを通じて親交を深めてきました。



- 珲春市を含む中国東北部は、上海や広州など中国沿岸部に比べて開発が遅れているものの、その分、日本の大企業の進出も少なく、今後の発展の可能性が期待されています。また、上越市は太平洋側に比べて国際的ハブ港<sup>24</sup>である韓国の釜山とも距離的に近く、地理的に優位にあります。
- 一方、海の玄関口・直江津港は、現在のところ日本海側の他港ほどの発展が見られていません。こうした世界的な貿易構造の変化の中、始まりつつある「アジアの時代」の風向きを的確にとらえ、活力や推進力を生み出していくための基盤をつくっていくことが発展のカギと言えます。



空から見た直江津港

#### ◆ 「交通の十字路」から「交通の十字軸」へ

- 「アジアの時代」の到来を受けて、日本海側での競争が激化することを考えると、まずは上越市が、首都圏と日本海側を最短距離かつ複数の高速道路で結ぶ安定的な位置にあることに着目し、これら経済圏と北東アジア経済圏の中継基地としての発展が展望できます。首都圏とその先のアジア地域が直江津港によって結ばれれば、これによって一大経済圏が築かれることになり、その中心地にあるのが上越市となります。
- また、上越市を中心とする日本海側の地域も、大きな人口規模・経済規模を持っています<sup>\*</sup>。この地域の経済がアジア地域の急伸に伴って成長を遂げるとともに、この地域内での交流・連携が行われるとすれば、北陸地方と新潟県の交通軸が交錯する構図が描かれる中で、上越市はその中心に位置することになります。

\* 例えば、新潟・富山・石川の3県の人口は約471万人であり、これは東京圏（東京・埼玉・千葉・神奈川）の人口（約3446万人）の約14%に相当する（平成17年国勢調査）。また、工業製品（2003年工業統計）の出荷額は3県で約10兆円であり、これは東京圏（54兆円）の約19%に当たる。

- この大きな2つの流れは、国土軸「日本海十字軸」を形成しますが、上越市はそれぞれの太い動脈の中心地となります。
- 上越市の目の前を活発に往来することになる人や物の流れを単に通過させるのではなく、この地を到着地や中継地として不可欠な拠点都市へと発展させていくためには、この国土軸をいかさない手はありません。上越市は単なる「交通の結節点」を脱却し、日本海側の地域の発展に欠くことのできない「交通の拠点」となる必要があります。
- この意味で、現在は上越市の「地の利」が大きく転換しようとする時期に当たります。豊富な地域資源<sup>17</sup>や複数の交通結節性といった“潜在的な力”を“真の実力”へと転化させながら、これまで上越市を支えてきた「交通の十字路」を「交通の十字軸」という確固たるものとする好機が到来しようとしています。
- 北陸新幹線の延伸もこれを後押しするような活用が必要です。まずは人や情報が容易かつ頻繁に交流・交換でき、その流れが貿易や物の流れを生み出すことで、その先の企業立地の活発化や、物流のさらなる集積、港湾の利便性向上などがもたらされる——こうした好循環が地域経済の活力や雇用の創出をもたらすような流れをつくり上げ、地域経済を推進する強力なエンジンにすることが可能です。

